

## 生誕100年記念シンポとコンサート「時空を超える貴志康一」

## 彗星のような男がいた



ソプラノ歌手  
なかじま あきこ  
**中嶋 彰子氏**

北海道生まれ。99年、  
ウィーン・フォルクスオ  
ーパー専属歌手に。04  
年、出光音楽賞受賞。

—日本と欧州を往復し、音楽家や映画監督としても活躍した貴志の人物像は？

**小松 貴志はバイオリン奏者として出発した。29年に6万円、現代なら数億円するバイオリンのストラディバリウスを購入し、日本人で初めて海外に留学する人は珍しかったが、貴志は大阪船場の織維問屋を経営した祖父の財力、東大で美学を学んだ父の知力を受け継いだ。**

**渡辺静枝（特別ゲスト、貴志の妹）** 兄は音楽家として知られるが、子どもの頃は絵が好きで、油絵をよく描いていた。8人きょうだいの長男

## 踊るような音楽新鮮

—貴志作品は海外ではどう受け止められているのか？

**中嶋 シドニーの音大生だった時、貴志の楽譜に出会った時、貴志の音楽に新しい鮮さを感じた。今回、貴志作品を、ゆかりの地で演奏したいと思いつつ、ベルリンフィルと交渉した。事務局の反応は芳しくなかつたが、その後「面白い」に変わった。さらにコンサートマスターの安永徹さんには樂譜を送り、樂員の共感**

—貴志作品は海外ではどう受け止められているのか？

**中嶋 シドニーの音大生だった時、貴志の音楽に新しい鮮さを感じた。今回、貴志作品を、ゆかりの地で演奏したいと思いつつ、ベルリンフィルと交渉した。事務局の反応は芳しくなかつたが、その後「面白い」に変わった。さらにコンサートマスターの安永徹さんには樂譜を送り、樂員の共感**

—貴志作品は海外ではどう受け止められているのか？

**中嶋 シドニーの音大生だった時、貴志の音楽に新しい鮮さを感じた。今回、貴志作品を、ゆかりの地で演奏したいと思いつつ、ベルリンフィルと交渉した。事務局の反応は芳しくなかつたが、その後「面白い」に変わった。さらにコンサートマスターの安永徹さんには樂譜を送り、樂員の共感**

## 阪神間文化が育てた



貴志康一記念室  
元創設委員  
くさか とくいち  
**日下 徳一氏**

甲南中学・高校元教諭。著書に「貴志康一よみがえる夭折の天才」など。

—貴志が留学した時期のドイツは、失業者がふれ、ナチス党も台頭していたが、爛熟した文化に多くの文化人が引き付けられていた。ドイツのエネルギーは貴志にも大きな力にならなかったはずだ。

**中嶋 そのころの西洋人に春を撮影し、ドイツに日本を紹介しようとした。そのた**

め、夜間学校で演劇を勉強し、日本はエキゾチックな東洋の国。貴志は映画「鏡」を撮影し、ドイツに日本を紹介しようとした。そのた

## 情感豊か聴衆を魅了

記念演奏会では、中嶋さん＝写真、左はピアニストの松本和将さん＝が、ベルリン時代の貴志が師と仰いだ作曲家ヒンデミットの作品や、天神祭のかがり火の背景に、浪花娘の初恋を上げた「赤いかんざし」、大坂の名所や情景を歌い込んだ「かごかき」などの貴志歌曲を演奏、大きな拍手を浴びた。



ベルリンフィルを25歳で指揮し、作曲家、バイオリン奏者としても活躍した貴志康一（1909～37）。その生誕100年を記念したシンポジウムと演奏会「時空を超える貴志康一—音楽が拓く未来」（甲南学園、朝日新聞社共催）が18日、神戸市中央区の新神戸オリエンタル劇場で開かれた。短くも夢を追い続けたその彗星のような生涯や作品をめぐる議論と、感性豊かな音楽が披露された。（コーディネーターは甲南大学長補佐の井野瀬久美恵氏）



ピアノを弾きながら貴志康一について基調講演する小松一彦さん

指揮者  
**小松 一彦氏**

東京生まれ。桐朋学園大卒。  
プラハ交響楽団常任客演指揮者、大阪芸術大学院教授。

東京育ちの私は、貴志の名は知っていても曲は知らないが、任指揮者になった際、甲南高校の依頼で演奏したのが最初だった。82年に関西フィルの常任指揮者になった際、甲南高校の依頼で演奏したのが最初の出会い。以来、貴志の伝道師を自認している。

彼の作品には色気と夢、あこがれがある。だからワクワク

する。特に短調から長調に

変わるときが素晴らしい。例えれば交響曲「仏陀」の第一樂章。

最初は短調で始まり、スラブ的な陰りのある半音が印

象的だ。その後長調に転じた際の、何と伸びやかでみずみずしいことか。

富士山の絵を見せて外国人に日本を説明するようなわかりやすさ。だがそれだけではなく、貴志は師事したドイツ出身のヒンデミットはもちろんどビュッシーやデュカスといったフランスの近代音楽からも影響を受けている。

昨年、ようやくオペレッタ「なみ子」の世界初演にござつけた。この作品はピアノ譜しか残っていない。今年はぜひひオーディオで再演し、貴志の果たせなかつた夢を果たしたい。そして私のライツワーカーとして貴志の作品をいつまでも演奏していきたい。

# 原点は日本の旋律

## 基調講演

とにかくハイカラでモダンボイだつた貴志の音楽の原点は、古謡や民謡という日本のメロディー。言うなれば、

富士山の絵を見せて外国人に日本を説明するようなわかりやすさ。だがそれだけではなく、貴志は師事したドイツ出身のヒンデミットはもちろんどビュッシーやデュカスといったフランスの近代音楽

●関西フィルハーモニー管弦楽団 5月21日19時、大阪のザ・シンフォニーホール。「日本組曲」。指揮・小松長生。関西フィル（06-6577-1381）。

●アルカディア特別演奏会 5月31日14時30分、神戸市の神戸新聞松方ホール。歌曲「赤いかんざし」「かもめ」ほか。指揮・金洪才。独唱・寺本郁子。アルカディア音楽芸術振興財团（0797-34-4333）。

## 本を読む

忘れられていた貴志康一が復権する足取りをたどった「貴志康一 よみがえる夭折の天才」（日下徳一、音楽之友社）、貴志の生涯を遺族の証言や膨大な資料をもとに描いた評伝「貴志康一 永遠の青年音楽家」（毛利真人、国書刊行会）などがある。

## 貴志作品の主なCD

- 「転生 貴志康一作品集」 (KK-Ushi) 貴志康一指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団。マリア・パスカ（ソプラノ）。「13の歌曲」「日本スケッチ」
- 「生誕80周年記念コンサート」 (甲南学園制作) 小松一彦指揮、東京都交響楽団。バイオリン・数住岸子。バイオリン協奏曲ほか
- 「交響曲「仏陀」」 (ピクター) 小松一彦指揮、サンクトペテルブルク交響楽団。交響曲「仏陀」、大管弦楽のための「日本組曲」から「春雨」ほか
- 「ベルリン・フィル～幻の自作自演集」 (甲南学園制作) 貴志康一指揮、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団。「日本スケッチ」「日本組曲」から「道頓堀」「花見」
- 「バレエ音楽「天の岩戸」」 (ピクター) 小松一彦指揮、大阪センチュリー交響楽団。「日本組曲」から「花見」「道頓堀」、バレエ音楽「天の岩戸」



1909年 大阪府吹田市で誕生。大阪市で育つ

- 18 兵庫県芦屋市へ転居、母の手ほどきでバイオリンを学ぶ。後にミハエル・ウェクスターに師事
- 19 甲南小学校に転校。同中学、高校で学ぶ
- 25 バイオリン演奏会で大阪楽壇にデビュー
- 27 高校を中退、ジュネーブ国立音楽院に留学
- 28 ベルリン国立高等音楽学校に入学、後にフルトベングラーに学ぶ
- 33 文化短編映画「鏡」を製作
- 34 ベルリンフィルで自作の「日本スケッチ」「仏陀」などを指揮、録音も残す
- 35 帰国。指揮者として国内で活躍
- 36 来日した著名ピアニスト、ケンプと共に演（右写真）
- 37 心臓まで死去。享年28



貴志の写真は、甲南学園貴志康一記念室提供